



DATA

名 称 旧松本区裁判所庁舎
 所在地 長野県松本市大字島立字2196-1
 (松本市歴史の里 内)
 完 成 明治41年 設計者 不明



建物内廊下。応接室や検事室、判事室等が並ぶ

判事、検事の席が一段高くなっているなど、当時の法廷の特徴がわかる

温故
知新

第26回

レトロ建築を歩く

旧松本区裁判所庁舎





この9月に最終回を迎える予定の、NHKの朝の連続ドラマ「虎に翼」。劇中では、戦前の裁判シーンが何度か描かれた。

今回紹介する旧松本区裁判所庁舎は、戦前に建設された区裁判所（戦前、軽微な民事・刑事事件の第一審を行なった裁判所）の典型的な建物であり、全国でも唯一ほぼ完全な形で保存されている建築である。

この建物は、明治41年（1908年）、松本城二の丸御殿の跡地に建てられた。木造平屋建の建物は、正面中央に玄関と車寄を構え、左右に翼を広げた形で2つの訟廷が配されている。

左右対称の意匠的で優雅な造りや、車寄が配された玄関などに、明治期の官庁舎に特有の要素が残されているため、全国の地方都市に建てられた裁判所のなかでも完成度の高い庁舎として、高く評価されている。

外観は重厚な瓦屋根と相まって、伝統的な和風建築の趣を見せるが、屋根につ

けられたドーマー窓（勾配のある屋根から垂直に突き出す形の窓）や、トラス構造（三角形を組み合わせた強固な構造）といった洋風の建築手法も垣間見ることができ

る。建物内部は、中央の玄関から左右へ判事室、検事室や応接室等が並ぶ廊下が伸び、訟廷へとつながっている。

当時の裁判は、職権主義（裁判所が訴訟活動の主導権をもつ）であったため、裁判官の左に検察官が座り、弁護人と被告人を一段高い壇上から見下ろす形で進行されていた。訟廷では、その様子が再現されている。

他にも、受付窓口が高い位置に設置され、訪ねてきた人を上から見下ろすようになっている。裁判官と検察官は建物内部から廊下を通って訟廷に入るが、被告と弁護人は外部の石廊下を通って入廷する造りになっているなど、戦前の裁判の性格がそのまま建物の構造に残されて



ごうてんじょう
格天井が印象的な応接室

いる。

昭和52年（1977年）、新庁舎への移転に伴って取壊しが決定されたが、それを惜しむ市民の運動により、昭和57年に日本司法博物館として移築、復元された。

平成14年（2002年）からは「松本市歴史の里」の1棟として、旧松本少年刑務所独居舎や旧昭和興業製糸場と共に展示されている。

平成29年11月に、国の重要文化財に指定された。



入口の天井にも細かい細工が施されている